



IIDA MUNICIPAL HOSPITAL NEWS

飯田市立病院

News

NO. 79
2020 Autumn



2p 5階東病棟が6階西病棟へ移転しました

3p 患者サポートセンターの移設

4p 5p ねっとわーく
すきから医院
かかりつけ医を持ちましょう

地域医療機関連携マップについて

6p がん相談支援センターからのお知らせ

7p 話題の広場 言語聴覚の日

職場紹介 臨床検査科

患者様の声

8p レントゲン博士の独り言
新任医師の紹介

ビューポイントから眺める下栗の里

飯田市立病院 基本理念

私たちは、地域の皆さんの健康を支え信頼される医療を実践します

飯田市立病院 基本方針

- ①私たちは、安全・安心で良質な医療を提供します
- ②私たちは、患者さん中心の医療を実践します
- ③私たちは、地域の保健、医療、介護、福祉機関と密接に連携します
- ④私たちは、教育・研修機能を高め、医療水準の向上とともに、職員が誇りややりがいの持てる職場をつくります
- ⑤私たちは、公立病院として、よりよい医療を提供し続けるために、健全な経営に努めます

飯田市立病院 理念行動指針

私たちは、誠意 熱意 創意 をもって医療を実践します

笑顔あふれる 新病棟へお引っ越し

5階東病棟が 6階西病棟へ 移転しました



7月30日に、5階東病棟は6階西病棟に移転しました。

階を跨いだ移動となりましたが、患者さん、ご家族、関係者の皆様にご協力いただき、安全に速やかに移動することができました。

6階西病棟は、消化器内科・総合内科等、主に内科系疾患を担当する病棟です。悪性疾患に対し化学療法を行う患者さんや、内視鏡の治療を行う患者さんが入院されており、患者さんの中には、入退院を繰り返し、治療を行う患者さんも多くいらっしゃいます。

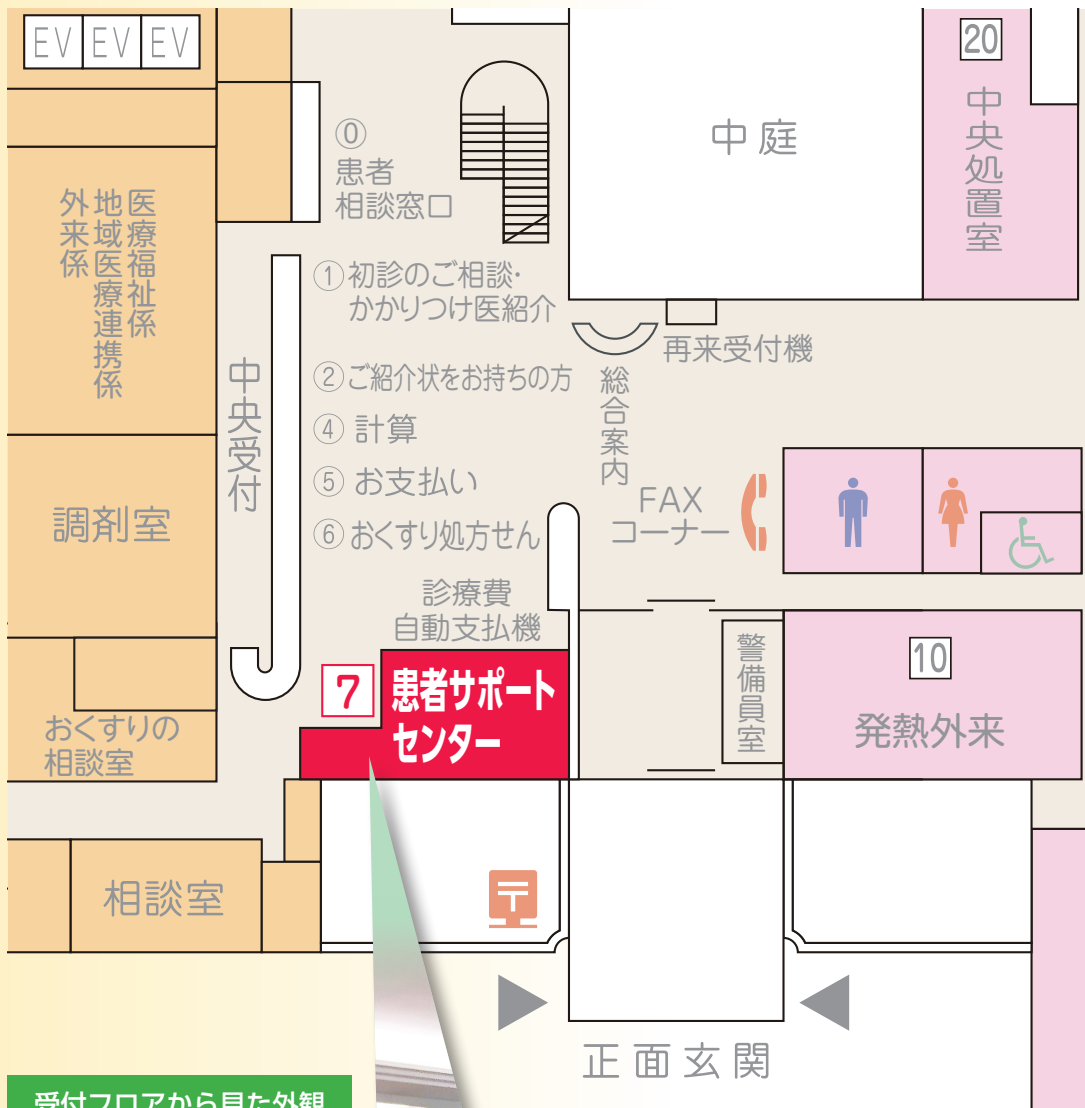
新病棟は、既に改修を終えた他の病棟を参考に、木目調のデザインを取り入れた壁や間接照明を採用し、患者さん・ご家族の皆様が安全・快適に療養生活を送っていただけるように改修させていただきました。

新型コロナウイルス感染症対応のため、面会制限、デイルームでの食事を禁止させていただいていますが、患者さん・ご家族の皆様の想いに沿った時間をお過ごしいただけるよう、スタッフ一同気持ちを新たに笑顔で取り組んで参ります。



新しくなったスタッフステーション

患者サポートセンター の場所が変更となりました



受付フロアから見た外観



執務室内の様子



相談室



「患者サポートセンター」の場所が、8月より変更となりました。これまで、外来棟の16番窓口にてご案内しておりましたが、正面玄関に入って左側の受付・会計フロア内に7番窓口を設け、新たに業務をスタートしました。これは、現在実施中の外来部門の見直し計画に伴う臨時的移設であり、一定期間の後には、正式な場所に窓口を設置する予定です。

現在、当院では、スムーズに外来診療をお受けいただけるよう、また、外来から入院までの一貫した支援を効率的に実施できるように、外来業務全体の見直しと改善を図っています。今後も、こうした動きに伴う各外来部門の臨時的移設が行われますので、ご理解とご協力をお願いします。



すきがら医院

- 診療科目 内科
- 院長 建石 徹
- 所在地 〒395-0084 飯田市鈴加町1-2-4
- 電話番号 0265-53-1000
- 往診 可
- 駐車場 あり



診療時間	月	火	水	木	金	土	日	祝
8:30 ~ 12:30	●	●	●	休	●	●	休	休
15:00 ~ 19:00	●	●	●	休	●	●	休	休

30年～10年～そして今

●開業して30年

義父(故)鋤柄博が、57年前(昭和38年)に産婦人科医院を開業、約8,000人の赤ちゃんをとりあげました。

私は名古屋大学を卒業後、阿佐ヶ谷・河北総合病院での研修を経て、母校大学院(老年科)で動脈硬化・高脂血症を研究、医学博士を取得。

平成2年、当院に内科を併設して赴任、もう30年経ちました。

●医師会理事として10年

飯田医師会理事を拝命して10年目、現在は広報担当理事を務めています。

理事の皆さんは大変熱心で、理事会は時に深夜帯に及ぶことも。

時代に合わせ、新型コロナ検査センターの運営会議は、Zoom開催に変更しました(私がホスト役)。

●そして今 ~ with コロナへの対応~

地域の皆様の安心・安全な生活を守る医療機関を指向し、新型コロナの「診療・検査医療機関」(執筆時点での仮称)として検査を実施すべく、院内設備を整えているところです。

陽性時には、感染症指定医療機関が受け入れて下さるので、大変心強く思い、保健所・医師会との連携を深めています。

専門医資格を持つ3分野(内科・老年病・循環器)を生かし、地域に根ざした医療を続けたいと、職員ともども、決意を新たにしております。



建石先生(前列中央左)とスタッフの皆様

地域医療機関連携マップについて



地域の医療機関等との連携をよりスムーズにするため、院内各部署で、必要に応じて地域の医療機関、調剤薬局、介護保険事業者等の情報を検索できる独自のシステム「地域連携マップ」を運用しています。

当院は、地域医療支援病院として、飯伊医療圏内の医療機関との機能分化・役割分担を推進しています。また、高齢化社会を見据えた「地域包括ケアシステム」による医療と介護の連携を進めていくために、介護保険事業者等との情報共有にも力

登録医とは…

共同診療、検査機器の利用、研修参加などを一緒に行って、より良質な医療を地域の皆様に提供するため、協力いただいている医療機関です。

◎「かかりつけ医」をもちましょう

かかりつけ医とは、なんでも相談できる上、最新の医療情報を熟知して、必要なときには専門医、専門医療機関を紹介できる身近で頼りになる医師のことです。

国は、医療も介護・住まい・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの実現を目指していますが、その中心的な役割を担うかかりつけ医をもつように国民の皆さんに呼び掛けています。

頼りになるかかりつけ医がいれば、具合が悪くなった時などに、すぐ相談でき早めの対策がとれます。住み慣れた地域で安心して暮らしていくためにも、身近なところでもかかりつけ医を見つけてみましょう。

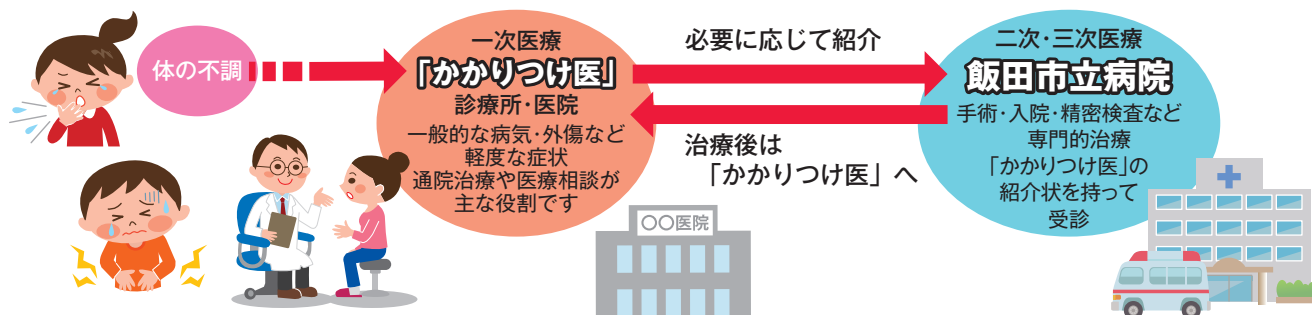
◎日頃の健康管理は「かかりつけ医」へ

風邪などの初期症状や、病気かな？と気になることがあれば、先ずはお近くの「かかりつけ医」で診てもらいましょう。

- 受診手続きが簡単で、仕事帰りや土曜日なども診てもらえます。
- 病歴・健康状態・体質など、継続的な記録があるため適切な対応をしてもらえます。
- 健康診断結果などを報告すれば、生活習慣改善のポイントなどのアドバイスをしてくれます。
- 精密検査や高度な医療が必要なときには、専門医を紹介してもらえます。

◎飯田市立病院の機能・役割

当院は、救命救急センターにて24時間救急患者の受け入れをしています。また、地域医療支援病院として地域の医療機関との連携や役割分担を進めるため、入院医療を中心とした医療提供体制を敷いています。



新型コロナウイルス感染拡大防止のため、地域の医療機関との役割分担を一層進めて参ります。

を入れています。

急性期医療や専門医療を終え、症状等が一定以上安定した患者さんを、より迅速に地域の医療機関等へご紹介できるように、また必要に応じて適切な介護保険サービスにつなげていけるように、地域連携マップの内容充実に努めていきます。



がん相談支援センター からの お知らせ

新型コロナウイルス感染症予防のため、引き続き開催を控えています。管理栄養士から「治療中の食事について」のお話を紹介させていただきます。

不調な時は無理をせず、
「食べられるものを、食べられるときに食べる」

薬物療法（抗がん剤治療等）や放射線治療中に次のような症状はありませんか？

各症状に応じた対処法やおすすめの食品を紹介します。

吐き気・おう吐がある

- 冷たく、口当たりの良い物を選ぶ
- 少しずつ回数を増やして食べる
- 味付けは薄くしすぎず好みに合わせる
- 材料はたくさん使わずシンプルにする
- 同じものを続けて食べない

【おすすめ食品】

梅干しを入れた冷たいお粥
冷やしこぼ湯
果物、スープ、シャーベット



食欲がない

- 自分に合った温度や食べ物を探してみる
- 少量ずつ盛り付けて品数を増やす
- 箸休めや汁物を取り入れる

【おすすめ食品】

そうめん、一口大のおにぎり
アイス、プリン、梅干し



味を感じない

- だしや油のコクを利用する。(カレーやソース味もおすすめ)
- 甘く感じる時は、酸味(酢・柚子・レモン)を利用してみる。塩気(味噌・醤油)で濃いめの味付けにしてみる
- 苦味を感じる時は、食前に柑橘類やフルーツジュースで味覚を刺激してみる。低塩やだしを利かせると苦味を感じにくい

【おすすめ食品】

亜鉛を多く含むもの
(豚赤身肉、豚レバー、牡蠣、うなぎ、するめ)



症状がある時は、無理せず、少しずつ、好きなものを、食べられる時に、食べられるだけ食べてみましょう。食事だけでは十分な栄養を摂ることができない場合は、栄養補助食品（少量で高エネルギーのゼリーや飲み物）等を上手に使ってみましょう。症状があり、辛い時は我慢せず、主治医、がん相談支援センターへご相談下さい。

○がんサロンや患者会等が開催されず、患者さん同士でお行き会える機会が減っているかと思えます。不安に感じていること、誰かと話をしたい時、がん相談支援センターでも話をお伺いできますので、お気軽にご相談下さい。
相談や上記のご予約・お問い合わせは…

《飯田市立病院 がん相談支援センター》

時間 ▶ 平日 8:30 ~ 17:15

直通電話 ▶ ☎ 0265 - 21 - 2010

場所 ▶ 130 がん診療・緩和ケアセンター内



言語聴覚の日

9 / 1

言語聴覚士をご存知ですか？当院ではリハビリテーション科に7名の言語聴覚士が働いています。

言語聴覚士は言語聴覚障害（脳卒中後のコミュニケーションや発達上のことばの障害など）や摂食・嚥下（飲み込み）に障害のある方々に評価・指導・訓練などの専門的サービスを提供し、障害の軽減を図るとともに、より質の高い社会生活の実現に向け支援していく職種です。当院では、お子さんの言葉の発達に対しても支援しています。

話す事も食べることも日常当たり前に行なっていて、それがうまくいかなくなることは想像しにくいですが、とてもつらいものです。少しでも楽になるように、一緒に練習したり、工夫を提案させて頂きます。お困りの方はご相談ください。

また、言語聴覚士を目指している方もお気軽にご相談ください。

毎年9月1日は

言語聴覚の日

言語聴覚士は
話す聞く食べるの
専門家です！



言葉によるコミュニケーションや
飲み込みに問題がある方々の
日常をお手伝いし
よりよい生活を送ることができるよう
全力でサポートします！



コミュニケーションや食べることでお困りの方は
言語聴覚士までご相談ください！

シリーズ ● 職場紹介 ● その66

【臨床検査科の紹介】

臨床検査科は臨床検査技師29名と事務1名が所属し、病気の診断や治療方針を決める上で、欠かすことのできない検査データを「迅速かつ正確」に提供させていただき部署です。

検査精度を上げるために、ISO15189の認定を受け、常に第三者の目でチェックされています。

各検査に対応した先進機器が設置され、毎年検査項目を見直し、実施項目を増やすなど、良質な医療の提供に努めさせていただいております。

また、通常業務の他に、院内チーム医療への参加や出前健康講座を通じて、患者様の治療・地域の皆様の健康増進に寄与できるよう、認定資格の取得など知識及び技術の向上にも努めさせていた



だいております。

最近では、遺伝子検査室を稼働させ、PCR検査が実施できる体制を構築いたしました。

日進月歩する医療において、常に増え続ける新たな検査に対応するため、勉強会を実施し、院内外の学会や講習会へ積極的に参加・発表を行い日々研鑽に励んでいます。

患者様の声

当院のご意見箱に頂戴した内容をご紹介します



コロナの流行が深刻になってから病気の家族を持つ身として、病院の診察に向かうのも少しピリピリした気持ちでしたが、看護師さんやスタッフの方は変わらず、穏やかに接して下さって落ち着いた気持ちになりました。

病院のスタッフの皆さんが少しでも爽やかに働けるよう病院での感染予防や日々の行動に気を付けることで協力できたらと思っています。お体大切にしてお仕事なさってください。

～皆様からのご意見を真摯に受け止め改善に努めます～

近頃の「かかりつけ医」を持ちましよう。市立病院へ初診で来院される場合、かかりつけ医からの紹介による事前予約があると待ち時間が短縮されます。



DNAの構造解明に役立つ写真をX線で撮った方のお話し

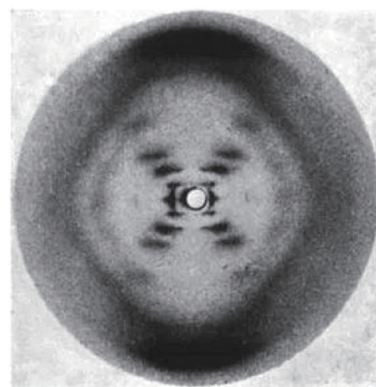
今回は、物質の3次元構造を知り、生物機能の原理を明らかにすることで、病気の治療に役立つX線結晶構造解析の手法とその発見に貢献したロザリンド・フランクリンについて紹介します。

Q. X線結晶構造解析とは？

A. 体の中ではタンパク質が働いていて、病気になる原因もほとんどがタンパク質にあります。病気の原因となる細胞の中のタンパク質を直接見る方法はありませんが、タンパク質の結晶にX線を照射すると、X線は分子構造に応じて散乱するため原子レベルで見ることができ、これをX線結晶構造解析とよびます。

Q. ロザリンド・フランクリンとは？

A. 1920年に生まれたイギリスの女性科学者です。彼女の専門分野はX線結晶学でしたが、30代の研究でDNAの水分含有量の差が「A型」「B型」の二種類の形態が存在することを明らかにし、DNA結晶にX線を照射することで、散乱パターンの写真撮影にも成功しましたが、未発表データとして一人で研究していました。



ロザリンド・フランクリンのPhoto51

Q. ノーベル賞の授与について

A. 1962年に、DNAらせん構造の解明に対して「ジェームズ・ワトソン」「フランシス・クリック」「モーリス・ウィルキンス」の3人の科学者にノーベル医学生理学賞が、タンパク質の構造解析への貢献で「マックス・ペルーツ」に授与されましたが、「ロザリンド・フランクリン」は、1958年8月に37歳でがんによりこの世を去っていたため、授与されることはありませんでした。しかし、授与された科学者達の発見にはロザリンド・フランクリンのデータが決定的な役割を果たしていました。

新任医師の紹介 (令和2年7月2日～10月1日)



総合内科

五味 大輔

(ごみ だいすけ)
平成18年卒業
令和2年9月1日着任

前勤務病院

信州大学医学部附属病院



脳神経外科

阿部 大志郎

(あべ だいしろう)
平成29年卒業
令和2年10月1日着任

前勤務病院

伊那中央病院



歯科口腔外科

盛岡 昌史

(もりおか まさふみ)
平成20年卒業
令和2年10月1日着任

前勤務病院

信州大学医学部附属病院



小児科

堀江 史俊

(ほりえ ふみとし)
平成29年卒業
令和2年10月1日着任

前勤務病院

信州大学医学部附属病院

あ と が き

本号(No.79号2020年秋号)から、これまで約13年間にわたりご愛読いただいておりますレイアウトを変更いたしました。新しいレイアウトは、これまで以上に写真・文字表現に工夫を凝らした制作に心掛けております。

是非、一度お読みいただき、感想をお寄せいただけますと幸いです。

編集委員 村松陽介